

目次

はじめに	iii
改訂増補版まえがき	v
本書の効果的な使い方	viii

第1章 可算名詞と不可算名詞の使い分け

I 仕切られているという感覚	2
1. 空間が仕切られているか	8
2. 時間が区切られているか	14
3. 出来事として捉えられているか	20
4. 具体例として捉えられているか	26
5. 物体として捉えられているか	32
6. 程度が問題になっているか	38
7. 種類が問題になっているか	44
8. 単位が問題になっているか	50
コラム1	56
II 元の形が失われたという感覚	58
1. 丸ごとか部分か	60
2. 動物か肉か	66
コラム2	72
コラム3	74

第2章 単数と複数の使い分け

単数は1、複数は2以上?	78
1. 注意が必要なケース	82
2. 名詞の前に no が付いたら	88
3. 単複同形と基だしさを表す複数	94
4. どうしても複数形をとらざるをえない場合	100

5. 集合体を表す	106
6. a と one, そして数詞	112
コラム4	118
コラム5	120
コラム6	122

第3章 定冠詞と不定冠詞の使い分け

どれを指しているかわかっている	126
1. 誰もが知っている	130
2. 周りの人たちは知っている	136
3. その場にいる人たちは知っている	142
4. 前に出てきた語を使ってもう1度指す	148
5. 別の語を使ってもう1度指す	154
6. 連想が働いている	160
7. 前に出てきた話をまとめる	166
8. 「唯一」や「同じ」を意味する形容詞とともに	172
9. 序数詞とともに	178
10. 最上級とともに	184
11. 前置詞句とともに	190
12. 関係詞節とともに	196
コラム7	202
コラム8	204
コラム9	208
コラム10	210

確認問題 A	216
確認問題 B	233
参考文献	250

本書の効果的な使い方

1 仕切られているという感覚

5. 物体として捉えられているか

問題9A 青字部分の意味の違いを考えてみましょう。

(1) He used to play **basketball** in high school.

(2) He was able to dribble **a basketball** between his legs.

解答9A

(1) 彼は高校時代にバスケットボールをしていた。

(2) 彼はバスケットボールを股の下を通してドリブルすることができた。

青字部分に注意して英語に直してみましょう。

(1) の basketball は、もちろん「バスケットボール」というスポーツを意味しています。では、「バスケットボール」というスポーツの絵を描いてくださいと言われた場合、皆さんらばどう描きますか。ボールそのものでしょうか。それともネットが付いているバックボードの方でしょうか。フリースローをしている選手を描く人もいるかもしれません。このように、「(スポーツとしての) バスケットボール」はやや抽象的で一定の形を持っていないため、不可算名詞として用いられます。野球 (baseball) やサッカー (football) などの他の球技スポーツも、同様に不可算名詞で表現されます。

それに対して、(2) の a basketball は、「バスケットボール (のボール)」を表しています。可算名詞の形をとっているのは、はっきりとした形はもちろん、ボールとしてはかなりの大きさや重さを持った物理的な存在、つまり物体だからです。この「ボール」は触れることはもちろん、ドリブルしたり、誰かにパスしたりすることも可能であり、したがって絵に描くことも簡単です。ちなみに、日本語の「バスケット」はスポーツのみを意味し、「ボール」は表しません。事実、「バスケットをドリブルする」という言い方はとても不自然に聞こえます。

challenge

ボールには触れられても、スポーツには触れられない

このように、触れたり絵に描くことができなかつたりする抽象的なものは、形がはっきりしていないわけですから、通例、仕切られているという感覚が働きません。そのため、不可算名詞で表すのが適切です。しかし、形のはっきりした物体として、もう少し言えば、触れることや絵に描くことのできる具体的な存在として捉えられると、対象となっている事物は途端に可算名詞で表すことが可能になります。

ただし、同じスポーツでも、こうした球技以外の場合、事情がやや異なることがあります。例えば、英語の skate(s) は「スケート

可算名詞と不可算名詞の違い

- 1 まず最初に、問題 A の 2 つの英文を読み、下線部の意味の違いについて考えてみましょう。完全に意味が異なる場合もあれば、ニュアンスの差にすぎない場合もあります。
- 2 次に、解答 A の日本語訳を見て、自分の答えが正しかったかどうか確認してください。
- 3 続いて、本文を読んで、冠詞の使い方に関する説明を理解します。その際には、「どのような対象を捉えているのか」、「どのように聞き手に伝えようとしているのか」という点に特に注意を払ってください。

1 仕切られているという感覚

いことだと思いますが、もし「銀メダル」を別の形に変えたいというのであれば、もう一度直す必要があります。直す途中の段階で、「銀メダル」はいったんドロドロに溶け、物体としての a silver から単なる物質としての silver に戻ることになります (こうした実験については、59 頁をご覧ください)。

challenge

適切な形を選んでください。

1. この地域からは、ニッケルが産出される。
This area produces [a / a] nickel.

2. 悪いけど、5セント (ニッケル硬貨) 貸してくれないか。
Sorry, but can I borrow [a / a] nickel?

解答と解説

1. 解説: 冠詞なし
解説: 物質あるいは鉱物資源としての「ニッケル」を表しており、形が不確かであるだけでなく、どの部分を取っても均質であるため、不可算名詞で用いられます。

2. 解説: a
解説: アメリカやカナダでは、5セント硬貨はニッケルで出来ています。この問題では、nickel は硬貨というはっきりとした形を持った物体として捉えられています。可算名詞の形で使ってください。

「物体として捉えられているか」がポイントになる単語
baseball, basketball, football, grammar, volleyball; brick,

bronze, copper, gold, iron, nickel, paper, silver, stone など。

6 a history of 100 years & a history of Japan

15 頁のチャレンジ 3 で、This school has a history of 100 years. という文を見た際に、不定冠詞が付けられた history は「時間が区切られているか」どうか判断基準になっているという疑問をしました。では、I've wanted to read a history of Japan. という文の場合はどうでしょうか。やはり history には不定冠詞 a が付けられていますが、とくに時間的に区切られているわけではありません。この場合、先程見た an Italian grammar と同じように、a history of Japan は物体として捉えられており、「日本史の本」という意味を表しています。実際、辞書を見てみると、可算名詞として用いられた history には、「歴史の本」「史書」という語義が載っています。

「歴史の本」であれば気軽に読めるものもあり、「歴史の本を読む」ことは素晴らしい趣味や娯楽になるでしょう。これに対して、「歴史を読む」と言うと、つねにそうとは限りませんが、専門的に推理をしながら歴史を探究あるいは研究していくような印象を受けます。こうした関係は、実は英語にも見られます。例えば、read a history of Scotland (for pleasure) と read Scottish history (at the University of Glasgow) を比べてみると、前者は「(楽しみのために) スコットランドの歴史の本を読む」ことを意味しますが、後者は「(グラスゴー大学で) スコットランド史を専攻する」という意味であり、大きな違いのあることがわかります。

可算名詞と不可算名詞の違い

- 4 内容がしっかりと把握できたところで、チャレンジに挑戦してみましょう。その際には、ただ正解かどうかを確認するのではなく、どのような考え方にしたがって正解が導き出されているか、解説を通して理解してください。
- 5 ここでもう一度最初に解いた問題に戻り、問題 B を解いてみましょう。日本語訳の下線部に注意しながら、英語に直してください。
- 6 各項目にはプッチコラムが、また章末にはコラムがあります。本文では説明できなかった点を補充していますので、プラスアルファの情報としてお役立てください。
- 7 巻末には確認問題が用意されています。本書を通して得られた冠詞に関する理解度をチェックするのにご利用ください。

I 仕切られているという感覚

皆さんは、中学1年の授業で、英語には数えられる名詞（可算名詞）と数えられない名詞（不可算名詞）があると習ったのではないのでしょうか。その際に、例えば「犬」を意味する dog は可算名詞であり、1匹を表す場合には、不定冠詞 a を付けなければならないことや、「水」を意味する water は不可算名詞であるため、a を付けてはならないといったことを学習したはずです。

確かに、可算名詞と不可算名詞の区別は中学1年で習います。しかし、そうした区別をいちいち気にすることはあまりなかったかもしれません。というのも、不定詞や受動態、関係代名詞といった新しい文法事項が次から次へと登場し、それらを理解していくだけでも大変であるだけでなく、テストでたとえ a や the を付け忘れても、大きく減点されることがなかったからです。ただ、本書を手にとられたということは、可算名詞と不可算名詞の区別をはじめとする冠詞の使い方がどこかで引っ掛かっており、できればもっと正確に理解し、正しく使いたいと考えていらっしゃるのではないのでしょうか。

さて、日本語の場合、英語とは異なり、可算名詞と不可算名詞という区別がありません。そのため、両者の使い分けがとても難しく感じられるのは確かでしょう。もちろん、辞書を引く時間があれば、可算名詞なのか不可算名詞なのかを調べることはできますが、いつもそのような時間があるとはかぎりません。また、たとえ調べる時間があっても、辞書に㊦ ㊧（㊦は可算名詞、㊧は不可算名詞）と両方の記号が併記されていたりして、結局どちらの形で使ったらよいかわからなくなってしまうこともしばしばです。

しかし、だからと言って、まだあきらめる必要はありません。辞書を調べる時間がなくても、可算名詞と不可算名詞を上手に使い分ける方法があります。それは、これから説明する2つの非常にシンプルな原則にしたがうだけです。まずは、1つ目の原則から見ていきましょう。

原則 1

ある名詞の表しているものが、**はっきりとした形を持っていれば可算名詞として、はっきりとした形を持っていなければ不可算名詞として用いる。**

上の原則は、可算名詞と不可算名詞を使い分ける上で最も基本的な考え方です。この原則の中に、「**はっきりとした形**」という言葉がありますが、これは名詞の表している対象が、輪郭や境界線によって周囲を仕切られたものとしてイメージされていることを意味しています。

この原則1について、dog と water という名詞を使って、もう少し詳しく説明していきましょう。最初に、頭の中で「犬」をイメージしてみてください。おそらく、四つ足で毛に覆われており、それなりの重さを持った動物を思い浮かべられたのではないのでしょうか。「犬」という動物は、皮膚（および毛）によって周りの環境から明確に仕切られており、はっきりとした輪郭を持つ存在であるため、絵で描くことも容易です。英語では、このようにはっきりとした境界線や輪郭を持っているものは、可算名詞の形で表現することになっています。

1

2

3

A

B

可算名詞と不可算名詞の使い分け

1. 空間が仕切られているか

問題 1 A 青字部分の意味の違いを考えてみましょう。

- (1) There's **room** for one more person in the back.
- (2) Is there **a room** available for tonight?

解答 1 B ←

→ 解答 1 A

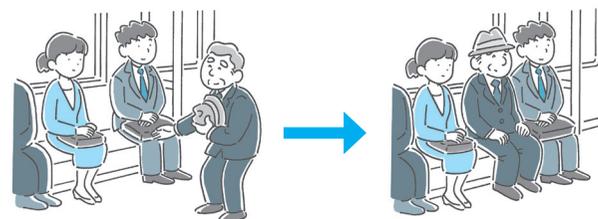
- (1) 後部座席に、もう 1 人分の**余裕**があります。
- (2) 今晚、空いている**部屋**はありますか。

青字部分に注意して英語に直してみましょう。

問題 1 B

原則 1 で説明しましたが、可算名詞か不可算名詞かは、はっきりとした形を持っているかどうかによって決まってきます。(1) の room は不可算名詞で、「空間」や「余裕」「余地」といった意味を表しています。space という英語で言い換えても、この場合はほぼ同じ意味であると言ってよいでしょう。そうした「空間」は、はっきりとした形があるわけではなく、その形や大きさは容易に変化します。例えば、電車などで使われる「少し詰めてくれませんか」という意味の Would you make **room** for me? という文は、次頁のイラストのように、「空間」が自在に伸縮することを表しています。

しかし、思い返してみると、room という語を中学校で習ったときの意味は、「空間」や「余裕」「余地」ではありませんでした。私たちが最初に覚えたのは、(2) の「部屋」という意味でした。しかも、one room, two rooms といった具合に、数えることのでき



狭い「空間」が広がる

る名詞として学習したはずですが、では、「部屋」という意味になると、どうして可算名詞の形で使われるのでしょうか。これは、実際に「部屋」をぐるぐる見回すとわかりますが、まさに周囲が壁、窓、天井、床によって仕切られ、はっきりとした形を持っているからです。建物の中に壁を作って「空間」を仕切れば、「部屋」の出来上がりです。そして、いったん出来上がってしまえば、改築もしないかぎり、「部屋」の形はそう簡単には変えられません。

さて、これから各章でチャレンジ問題を、巻末では確認問題をたくさん解いていただきますが、1つ約束事があります。それは、ある語が不可算名詞（および固有名詞）の形で使われているために、「冠詞なし」となる場合には、そのことを記号「 \emptyset 」で示すという点です。この点に注意しつつ、早速問題に挑戦していきましょう。

チャレンジ 1

適切な形を選んでください。

1. 宇宙では、光はまっすぐ進む。

In \emptyset / a space, light travels in a straight line.

2. これらの 2 語の間には、スペースを入れるべきです。

You should leave \emptyset / a space between these two words.

2. 名詞の前に no が付いたら

問題 23A 青字部分の意味の違いを考えてみましょう。

- (1) He has **no father**.
- (2) He has **no brothers**.

解答 23B

解答 23A

- (1) 彼には**父親**がない。
- (2) 彼には**兄弟**がない。

青字部分に注意して英語に直してみましょう。 問題 23B

80 頁で、「単数は1、複数は1以外」と定義し直した際に、0も複数形で表すと書きました。例えば、Water freezes at **0 degrees** centigrade. のように、「0度」を意味するときには複数形を使います。では、同じく「0」や「無」であることを意味する no が前に来たら、名詞は単数形と複数形のどちらを選ぶべきでしょうか。

上の問題 23 では、(1) の「父親」は He has **no father**. と単数形になっているのに対して、(2) の「兄弟」は He has **no brothers**. と複数形になっています。(1) の場合、**生物学的な意味での「父親」つまり「実父」は1人しか存在しないことが**、単数形をとっている理由です。しかし、「**兄弟であれば必ずしも1人とはかぎりません**。そのため、(2) のように「兄弟」がないことを表す場合であっても、複数形を用います。

「**no + 名詞の複数形**」は、日本語からすると違和感があるかもし

れませんが、英語ではごくふつうの表現方法です。例えば、授業などでは「質問」が複数あってもおかしくないため、Do you have **any questions**? と複数形で尋ねますし、答えるときも I have **no questions**. のように、複数形で言います。「質問が1つもない」という場合は、単数形を使って I have no question. とすることも一応可能ではあるようですが、no と不可算名詞 question の組み合わせとして解釈されると、「疑念はない」という意味になってしまいます。誤解を避けるためには、no questions と複数形にするか、I don't have **a question**. というはっきりと可算名詞だとわかる形を用いた方が無難でしょう。

こうした「no + 名詞の複数形」と「**no + 不可算名詞**」の対立は、There are **no schools** in this village. と There is **no school** today. という文にも見ることができます。前者は数えられる存在として捉えられた「(施設としての) 学校」を表しているのに対して、後者は「授業」あるいは「学校教育」を意味しています。日本語では、それぞれ「この村には学校がない」「今日は学校がない」と同じように言ってしまうので、違いのあることに気づきにくいかもしれません。

チャレンジ

適切な形を選んでください。

1. さっぱりわかりません。
I have no [idea / ideas].
2. 何も思いつきません。
I have no [idea / ideas].

8. 「唯一」や「同じ」を意味する形容詞とともに

問題 47A 青字部分の意味の違いを考えてみましょう。

- (1) He is **the only son**.
- (2) He is **an only son**.

解答 47B

解答 47A

- (1) 彼は**一人息子** (=唯一の息子) だ。
- (2) 彼は**一人息子** (=一人っ子の息子) だ。

青字部分に注意して英語に直してみましょう。 問題 47B

ここまで、前に出てきているものに対して再度言及する場合、言い換えれば、文脈から何を指しているのか聞き手はすでにわかっているはずだと思われる場合には the が用いられるという点について説明してきました。しかし、ご存じのように、**冠詞よりも後方に来ている要素が the の使用を求める**ことがあります。以下では、それはいったいどういう場合なのかを見ていくことにしましょう。

形容詞の中には、**修飾する名詞の指しているものが1つだけであることを積極的に表現しようとする語があります**。「唯一の」という意味を表す only がまさにそれで、この意味のときには必ず the を伴います。問題 47 の (1) は、ある両親にとって「彼は唯一の息子だ」という意味です。

ところが、(2) も「一人息子」という意味を表しているのに、the ではなく an が使われています。誤りではないかと思った方も

いらっしゃるかもしれませんが、こちらの方がむしろふつうの表現です。実を言えば、この only は「唯一の」という意味ではなく、「一人っ子の」という別の意味で使われています。そのため、He is **an only son, the only son** of Bill and Mary. といった具合に、2つの異なる意味を表す only を1つの文の中に組み込むことができます。前の only は「一人っ子の」、後の only は「唯一の」という意味で使われています。冠詞が異なっている点にも注意してください。また、世の中には「一人息子」は数多くいますから、**Only sons are usually spoiled.** と複数形で文を作ることも可能です。

ついでながら、「唯一の」と言っても、絶対に1つ、つまり名詞の単数形を従えなければならないということではありません。例えば、These are **the only songs** I listen to these days. のように、何かをひとまとめにして全体を表す場合は、名詞の複数形といっしょに使うことができます。この文を日本語に直訳すると、「これらは私が最近聞く唯一の曲だ」となりますが、より自然な日本語で言えば「私が最近聞く曲はこれらだけだ」ということであり、1曲だけを意味しているわけではありません。

チャレンジ47

適切な形を選んでください。

1. 私は自分のクラスで唯一の一人っ子だろうか。

Am I [an / the] only only child in my class?

2. 一人っ子とは、兄弟のいない人のことである。

[An / The] only child is someone who has no brothers or sisters.

1

2

3

A

B

定冠詞と不定冠詞の使い分け

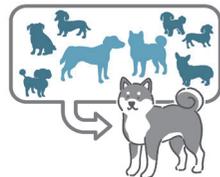
コラム
8

英語で何かについて一般論を述べたいときには、可算名詞の場合であれば、次の3つの表現形式が利用可能です。

- ・「a + 名詞の単数形」 A dog is a faithful animal.
- ・「名詞の複数形」 Dogs are faithful animals.
- ・「the + 名詞の単数形」 The dog is a faithful animal.

これらはすべて総称文と呼ばれており、基本的にはほぼ同じ意味を表していると理解して差し支えありません。しかし、表現形式が異なっている以上、ニュアンスの差はあると考えてください。

まず、「a + 名詞の単数形」は、「犬」の集合の中から1つだけ見本を取り出して、「犬」と呼ばれている動物の特徴を表そうとしています。



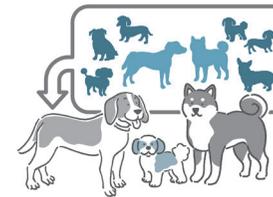
「a + 名詞の単数形」

「犬」の集合の中から
1つだけ見本を取り出す

この「a + 名詞の単数形」は、辞書などで定義をするときによく使われます。本書でも、この形の定義文がいくつか登場しました。上の A dog is a faithful animal. という文を日本語に訳してみると、「犬とは忠実な動物である」といった感じになるでしょう。

2つ目の「名詞の複数形」は、「犬」の集合の中から見本を取り出して、「犬」と呼ばれている動物の特徴を表そうとしている点は

同じですが、見本の数が増えて複数になっています。

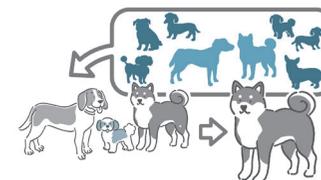


「名詞の複数形」

「犬」の集合の中から
複数の見本を取り出す

確率という観点からは、見本が1つだけではやや心許なく思われます。ひょっとしたら、正しく特徴を表せないかもしれません。しかし、複数の見本——しかも、裸の複数ですから数に制限がありません——を取り出せば、安定感はぐっと増すでしょう。日常的には、この「名詞の複数形」という表現が最もよく用いられます。

では、3番目の「the + 名詞の単数形」はどうでしょうか。「犬」の集合の中には、チワワから柴犬、さらにセントバーナードに至るまで様々なものが混在しています。大きさ、毛並み、色などの点で、千差万別です。そこで、見本の間に存在する差異を捨て去り、典型的な「犬」のイメージを作り上げ、それによって「犬」と呼ばれている動物の特徴を示すやり方が、この「the + 名詞の単数形」という表現形式です。



「the + 名詞の単数形」

典型的な「犬」のイメージ
を作り出す

複雑な手続きをとっているため、やや高度な表現の仕方になって

確認問題 A

日本語とほぼ同じ意味になるように、適切な形を選んでください。
冠詞が不要な場合は、 \emptyset という記号で示されています。

問題 1

(1) われわれは (まともな) 社会の中で暮らしているんだよな。

You know, we're living in [\emptyset / a] society.

(2) 経済および社会の急速な変化に対応するために、生涯学習が必要とされている。

Lifelong learning is needed to cope with rapid changes in economy and [\emptyset / a] society.

問題 2

(1) ことわざにもあるように、ローマは 1 日して成らずだ。

As the saying goes, Rome was not built in [\emptyset / a] day.

(2) 工事は日の出よりも前に始まった。

The construction had begun before [\emptyset / a] day broke.

問題 3

(1) 結婚は偉大な発明だ。

[\emptyset / A] marriage is a great invention.

(2) 結婚は契約ではない。

[\emptyset / A] marriage is not a contract.

問題 4

(1) 彼はわが校の誉れだ。

He is [\emptyset / an] honor to our school.

(2) 彼は信義を重んじる人だ。

He is a man of [\emptyset / an] honor.

問題 5

(1) レンガを使ってドアを開けておいた。

I used [\emptyset / a] brick to keep the door open.

(2) この地域の家は、ほとんどがレンガで造られている。

Most of the houses in this area are made of [\emptyset / a] brick.

問題 6

(1) 経営戦略に関する彼女の専門知識には深みがある。

There is [\emptyset / a] depth in her expertise on business strategy.

(2) 彼の声にはいくぶん深みがあった。

There was [\emptyset / a] depth in his voice.

問題 7

(1) 明後日は木曜日だ。

The day after [\emptyset / a] tomorrow is Thursday.

(2) よりよい明日を願いましょう。

Let's hope for [\emptyset / a] better tomorrow.

問題 8

(1) オレンジジュースを 1 つ、氷なしでお願いします。

1

2

3

A

B

問題 27

(1) これは今までで最も危険な任務だ。

This is [a / the] most dangerous mission we've ever had.

(2) これは極めて危険な任務だ。

This is [a / the] most dangerous mission.

問題 28

(1) 大学生の頃、ポーの詩集を読んだ。

I read [a / the] collection of Poe's poems when I was in college.

(2) その銀行は強引に負債を回収してきた。

The bank has aggressively pursued [a / the] collection of debt.

問題 29

(1) ここはゲーテの生家だ。

This is [a / the] house where Goethe was born.

(2) どこでもいいから 2 人だけになれる場所へ行こう。

Let's go to [a / the] place where we can be alone.

問題 30

(1) 日本では、1980 年代は大いに繁栄した 10 年であった。

In Japan [1980 / the 1980s] was a decade of great prosperity.

(2) 多くの人たちが、20 世紀は 1900 年に始まったと間違っている。

Many people wrongly believe that the 20th century began in [1900 / the 1900s].

確認問題 B 解答と解説

問題 1: (1) 冠詞なし (2) an 「空間が仕切られているか」

(1) は「公職」という抽象的な意味を表しているので不可算名詞、(2) は周囲が壁などで仕切られた「オフィス」「事務所」を表しているので可算名詞が正しい形です。

問題 2: (1) 冠詞なし (2) a 「時間が区切られているか」

(1) は「冬(という季節の気候)」を不可算名詞の形で、一方、(2) はカレンダー上の「冬(という期間)」を可算名詞の形で表しています。今では詩的な言い方になっていますが、winter は「年」を意味することもあり、「何年も前に」は many winters ago と表現できます。

問題 3: (1) 冠詞なし (2) an 「出来事として捉えられているか」

(1) は「稼働」している状態を表しているのに対して、(2) は多数の厳しい局面を通過する「(出来事としての)手術」を意味しています。前者は不可算名詞、後者は可算名詞にしてください。

問題 4: (1) a (2) 冠詞なし 「具体例として捉えられているか」

(1) は具体例として捉えられた「うまくいったこと」「大当たり」を意味しているので、可算名詞の形が相応しいでしょう。他方、(2) の文はある種の決まり文句ですが、「成功」「成就」というものを抽象的に表しているため、不可算名詞の形にします。

問題 5: (1) a (2) 冠詞なし 「物体として捉えられているか」